

地域からつくる国際交流

県高校ユネスコ研究大会 125人が一緒に学ぶ

第11回県高校ユネスコ研究大会（県高校文化連盟国際理解専門部、県ユネスコ協会連盟主催）は23、24日、滝沢市後の岩手山青少年交流の家で開かれた。県内の高校28校か

ら、国際理解や交流に関心のある生徒など25人が参加。岩手ユネスコ2016 創ろう持続可能な未来 地域から世界へをテーマに、交流学習や共同生活を通じ、相互理解

と地域づくりに関する知識を深めた。

大会では「地域おこし」「環境」「多文化共生」「メディアリテラシー」「平和」の5種類の分科会が開かれ、参加生徒が意見を

いって周知することもに、チラシを区内に全戸配布。資源ごみの項目に雑紙の項目を加えたごみ収集カレンダーも配布する。

説明会も好摩地区（好摩地区コミュニティセンター、28日午前10時）、巻堀・姫神地区（巻堀地区コミュニティセンター、28日午後2時）、渋民地区（玉山総合事務所201会議室、29日午前10時）、玉山・薮川地区（玉山地区公民館、29日午後2時）で開催する。

盛岡市は資源リサイクルの推進と可燃ごみの減少を図るため4月1日から、旧市域都南地域を含む）で既に実施している雑紙の資源ごみとしての分別回収を玉山区にも拡大する。同区は現在、カレ

ンダーやノート、菓子箱、コピー用紙、紙袋、包装紙などの雑紙（その他の紙）を可燃ごみとして収集している。玉山地域協議会たよりの雑紙の分別収集につ

て周知することもに、チラシを区内に全戸配布。資源ごみの項目に雑紙の項目を加えたごみ収集カレンダーも配布する。

説明会も好摩地区（好摩地区コミュニティセンター、28日午前10時）、巻堀・姫神地区（巻堀地区コミュニティセンター、28日午後2時）、渋民地区（玉山総合事務所201会議室、29日午前10時）、玉山・薮川地区（玉山地区公民館、29日午後2時）で開催する。

出し合った。24日には全体発表会も開かれた。

23日は、NPO法人桜ライン311の岡本翔馬代表理事による講演「東日本大震災から拡がる可能性」も行われた。岡本代表は「今すぐ、何かができないことは悪いことではない。こつしたい、こつ生きたいというイメージを持つことで人は変わる」と高校生のさらなる活躍を期待した。

盛岡農業高の奉仕委員会で委員長を務める川野八千代さん（3年）は「たぐさんの仲間と触れ合い話し合うことで、他の人がどんな考えを持っているかを知り、自分の考えを深めたい。普段から寮生活を送っているの、集団生活の面でも存在感を出せれば。大会を通じて、違った見方ができるようになるなど、新たな発見ができれば」と話していた。



県高校ユネスコ研究大会で講演に聞き入る高校生

県高文連盟国際理解専門部の菊池和豊部長（杜陵高校長）は開会行事で「若い高校生がある」とあいさつした。

日専連版画コンクール

おどって盛岡地区作品展

第24回日専連全国児童版画コンクール盛岡地区作品展（日専連盛岡など主催）が25日まで、盛岡市中ノ橋通のプラザおどって2階キヤラリーで開かれている。県内33校から応募のあった686点のうち入選作品100点を展示。紙版画と木版画で動物や人物などを表情豊かに表現した作品が並んでいる。午前10時から午後5時。日専連盛岡理事長賞は、鈴木周吾君（花巻市立宮野目小5年）の木版画「おいしいご飯」。大きな口を開けておいしそうに食事を頬張る様子が生き生きとした表情で描かれ、スプーンを持つ手も細かい描写で表現されていた。

大勢集まり、意見を出し合ったこの大会は意義のある、貴重な機会で行事である。田中館隆雄審査委員長は「筋肉の動きに彫刻力を動かし盛りの上がりを表現し、服はあまり彫らずに線だけで表す、黒い部分と白の部分が調和がとれている」と講評する。日専連盛岡青年会長賞は、工藤さくらさん（八幡平市立平館小3年）の紙版画「キリンと遊ぼう」。キリンの穏やかな表情と一緒に遊ぶ子どもたちの笑顔が楽しそうに、キリンの模様や子どもたちの服の模様もさまざまに形の紙を使つて上手に表現している。田中館委員長は段ボールなど身近にある紙の質感をよく考え、部分部分に配置した。下草の三角形とキ